

脳出血（脳内出血）について

脳出血は脳血管疾患（脳卒中）の中の一疾患で、脳の細い血管が何らかの原因で破れて、脳の組織の中に直接出血する病気です。前触れ症状はほとんどなく突然発症し、脳内に出血した血液は血腫という血の塊を形成して脳細胞を破壊したり、脳のむくみを生じて周囲の脳組織を圧迫したりして、脳の働きを傷害します。発症予防、発症早期の治療、発症後のリハビリテーションが重要となります。

大事なこと

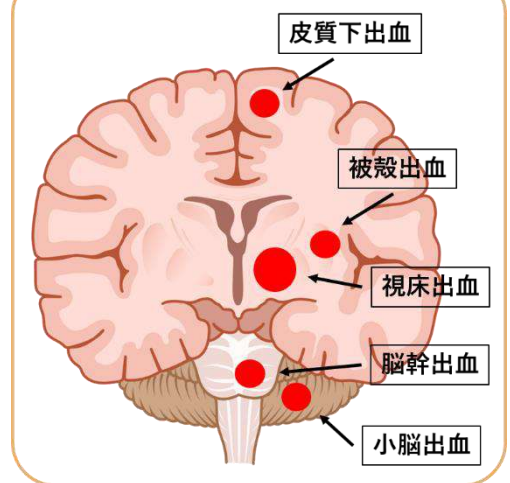
- ✓ 予防が重要。高血圧の治療およびリスク因子を排除する。
- ✓ 抗凝固療法/抗血栓療法を漫然と継続しない。
- ✓ 脳動静脈奇形などの疾患が指摘された場合は、脳出血予防目的に適切な治療を行う。

・脳出血 の症状（発症した部位によって様々な症状がでる）

- ① 被殻（ひかく）出血：約 40%。
片麻痺、感覚障害、半盲、意識障害、失語症 など。
- ② 視床（ししょう）出血：約 30%。脳室内出血を伴うこともある。
片麻痺、感覚障害（麻痺より優位）、顔面神経麻痺、意識障害 など。
- ③ 皮質下（ひしつか）出血：約 10%。
片麻痺、半盲、失語症 など。
- ④ 小脳（しょうのう）出血：約 10%。
頭痛、嘔吐、めまい、歩行障害 など。
- ⑤ 脳幹（のうかん）出血：約 10%。
意識障害、四肢麻痺、呼吸障害 など。大きな出血の場合は予後不良。

※ 脳出血は脳梗塞と症状が似ており、検査をしないと区別がつけづらい。

脳の断面図（左右断）



・脳出血 の原因、リスク

高血圧、大量飲酒、喫煙、抗凝固/抗血栓療法（血がさらさらになっている状態） など。
（特殊なもの） 脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、海綿状血管腫、静脈性血管腫、脳腫瘍 など。

・脳出血を疑う場合 に必要な検査

- ① 頭部 CT 検査：出血部位の検索。脳浮腫、水頭症などの評価。
- ② 頭部 MRI 検査：脳梗塞との鑑別診断が可能。

・脳出血 の治療

- ① 血圧調整：早期に収縮期血圧を 110～140mmHg へ降圧する。
- ② 抗凝固療法に対する中和剤を使用する。止血薬を使用する。
- ③ 脳浮腫予防の治療を行う。
- ④ 開頭手術、神経内視鏡手術：脳浮腫が亢進している場合に除圧のために行う。
※ 頭蓋骨をあけ、血腫を除去する。局所麻酔、小さな穴でも血腫除去は施行可能。
- ⑤ 安全性に配慮して、可能な限り早期に社会復帰を目指してリハビリテーションを行う。